



コロナに負けず、あじけん桜は、今年も綺麗に咲きました。

4月に入りました。4月は新入学のシーズンなのですが、当校に入学してくる実習生は、残念ながら今月も0名。実習生の皆さんがいない教室は、本当に寂しいもので、昨年末から2月にかけての活気が嘘のようです。

それでも、街では真新しい制服に身を包んで、登校する学生の姿を見かけることが多くなりました。昨年のこの時期は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、街から学生の姿が消えていたことを思うと、コロナを取り巻く状況も良くなって来ていると言えるのではないのでしょうか。国内でのワクチン接種も始まり、徐々にではありますが、実習生の入国再開に向けて光も見えてきています。実習生の皆さんとの再会を切望しつつ、万全の準備に取り組む日々が続いています。

あじけんスコープ Vol.96

～ オンラインリモート授業研修会 ～

今月5日(月)に、先月に引き続き、日本語講師研修会を行ないました。今回の研修では、栗又教務主任を講師とし、当校で新たに導入が決まったオンラインシステム「Zoom」の基本操作や、語学授業に応用出来る数々の便利機能についての理解を深め合いました(写真1)。また、新たに得た知識をスムーズに授業で実践できるように、実践練習(写真2)も行いました。Zoomは、本来はオンライン会議用のシステムですが、語学指導に応用出来る機能がたくさんあり、講師の先生からも、「新しいシステムなので不安もあるが、早くZoomで授業がしてみたい！」との前向きな意見が多数聞かれました。



写真1：Zoomの基本操作について研修を受ける講師陣



写真2：少人数のグループに分かれての実践練習

今月の実習生

今月の実習生は、李 秋艶(リシュウエン)さん※写真向かって左と、NGUYEN THI HANG(グエン・ティ・ハン)さん※写真向かって右、の2人に登場を願いました。

2人は、コロナ禍の影響で、帰国困難になってしまった為、緊急的な措置として、一時的に、当校でお預かりしている元実習生(本校卒業生)です。

なかなか先が見えない辛い状況下で、母国に帰る日を折り数える日々が続いている李さんとハンさん。

2人が1日も早く、家族の元に帰れる日が来ることを願うばかりです。

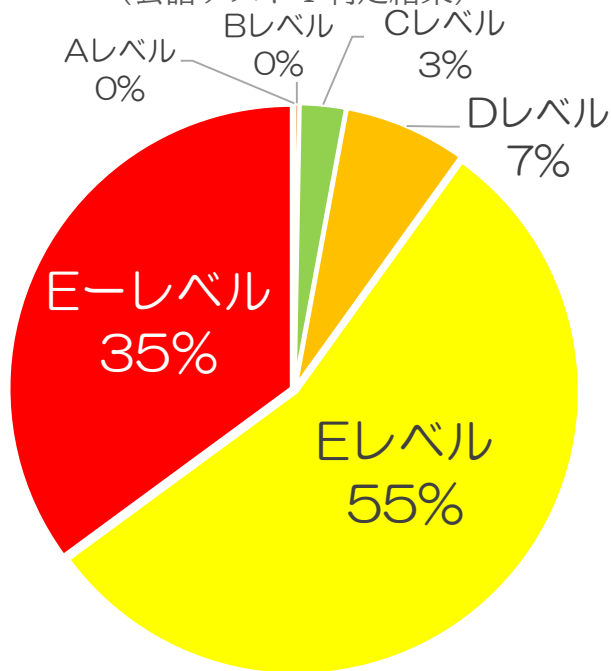


あじけん流日本語授業

～リモート授業による日本語指導の成果と課題～

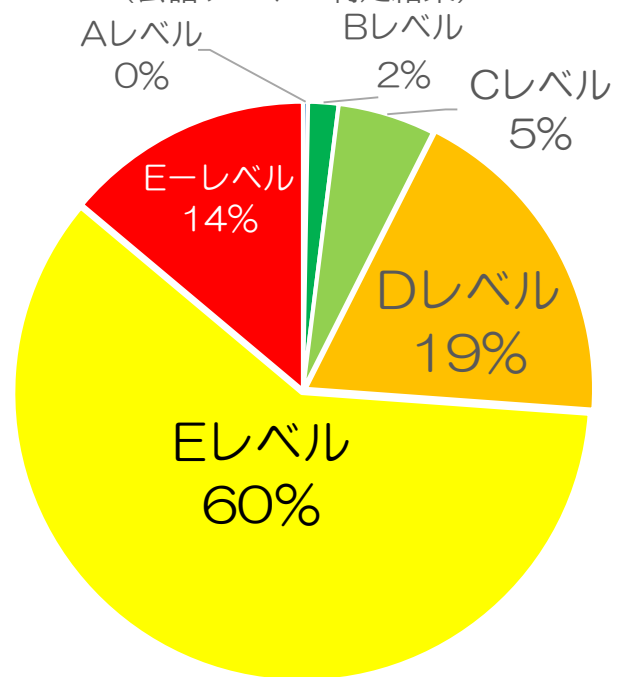
講習開始時実施

(会話テストⅠ判定結果)



講習修了時実施

(会話テストⅡ判定結果)



今月のあじけん流日本語授業は、入国制限が解除された2020年8月以降に来日した実習生から2021年1月に再度入国が制限されるまでに当校で講習を受けた実習生の会話テスト結果データの分析をお伝えします。

この実習生は、日本語100時間のうち3～5日(24時間～40時間)は、リモートで授業を受けました。つまり対面で授業を受ける時間が以前よりも短かったこととなります。100時間全て対面で授業を行っていた時は、会話テストⅠでEまたはE-レベルの実習生が95%、会話テストⅡでは、その割合が65%まで減り、30%の実習生が当講習の目標であるDレベル以上にレベルアップすることが出来ました(あじけん通信2019年12月参照)。ところが今回は、EまたはE-レベルの実習生が90%から74%と、16%の実習生しかDレベル以上に上がることが出来ませんでした。この結果の原因は、以下の3つと考えられます。①基礎力をつける講習当初がリモート授業であるため、実習生が集中できず、基礎力をしっかりと身に付けさせることが出来なかった。②当講習は、講習初日から自然な日本語で話しかけ、聞き取り、応答練習をすることが特徴だが、リモートでは、ゆっくり、はっきり、丁寧に話しかけてしまい、対面になってから自然な日本語で話しかけても、なかなか慣れさせることができなかった。③しっかりと身に付けさせたい「指示に従う」「聞き返す」などの力は、対面での日本語のリアルな会話、表情や、ジェスチャーと共に習得されるものだが、その時間が短くなってしまった。

今後の改善点として、リモート授業の中でも、実習生の集中が途切れないような授業展開や、自然な日本語に出来るだけ触れられるような機会を作るなど、指導技術の向上に取り組んでいきたいと思えます。

※事前日本語学習が1年～2年半と長期間のホテル実習生、企業単独型の特別カリキュラムで講習を行なっている実習生のデータは、基礎データに含まれておりません。

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます